



あでやかさげろれんか(先
TEL 011-563-6917 高橋 緑
No.33号 通信担当者 旗野 守子)

1981.10.3.

9月例会は、『女と戦争』の読書会でしたが、日曜日のせいか、出席は10名（うち男性2名）の淋しい入数でした。右傾化が叫ばれておりますが、一般の人には、まだまだ受け入れられない問題なので、せめて、あら、の仲間は、もつと身边に考えて、多数の参加者がほしかったと思ひます。

始めて、松井より「アジアに戦争の跡をめぐらせて、抜

粋して読んでみましたが、日本は加害国であることに、女の性が戦争に利用され、酷い扱いを受けてこと、日本兵の虐殺や、アラビックのそれと同じ位に、酷かったことなどを感じ、辛辣に、参加の男性に、勝つて1回の男が負けて1回の女を強姦したり、従軍慰安婦として、一度に何人もの兵隊達と相手にしなければならなかた事実をどう思うか、聞いてみました。50歳の男性は、「この年代では、金があるものが女を買つのが当然と思って育ってきた年代なので、普通のことないが」と、つぶやきしていました。しかし自分は、普通ではないと、考えているのかなにして、女の性だけが、買春観光等、今まで問題になるのは、まだまだ参考でないと感じました。

次に1930年代が現状に似通つている。その邊に戦争に傾いて、つていいのではないかと思つて、「週刊婦女新聞」にみる1930年代婦人雑誌の抵抗と挫折、に触れてみました。5日と一家人が、食べるものもなく飢えに苦しんでいる話を読み、現代だとこんな話しがあるのだろうか、と、皆で考えてみました。生活保護も本当に困っている人が、困つていいのだろうか、軍事予算に取られ、食いつぶつ今でもいいのではないだろうかと思つりました。

茅野さんが、同じ保育園に通つている人が、550円の毎月支払う負担が大きなくて、困つている母子家庭の人の話をして

くれました。そのお金と借りへ
行くためのバス代を貸して下さいと
言われ、小銭がないのだううくら
に思って聞かっていたり、本当にお金
に困っている人だったそうです。

不況の時にはると、軍事産業が景気

回復としようじこの貌を現していく、それは、企業が肥太る
だけで、零細企業で働く人々の生活は、苦いのでは
ないか、と言うことでした。

最後に中島通子、平和と女性解放、に触れて、
皆の感想を話してもらいました。

1. 戦争が始まると一番先に食料危機があるのではないか。
2. 右傾化を知らない人にまず知りさせてあげよう。
3. マスコミと右傾化の鉄道が多くなるので注意しよう。
4. 夫や身近な人と戦争だけでなく性別役割分担等話し合いたい。
5. 若い人が戦争の本当の恐れを知りなじで賛美している。
6. 戦争に反対すると夫に女の労働力権等を確立し、今の日本経済
侵略をも含めて若えべきではないか。
7. 10フィート運動に参加をといつぱんやめもありました。

次山さんましたが、身边に出来るマスコミへの投稿、
放送局への電話での抗議を始めていくとか、大勢
の人々に右傾化を知りせる近道ではないかと思われて。
文責 萩野京子



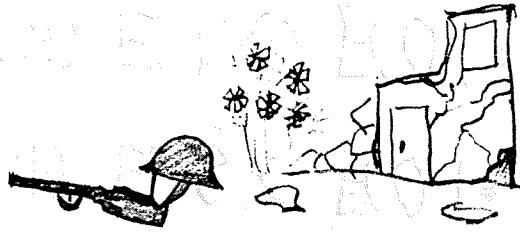
10月例会案内

日時 10月13日(火) PM6:30~9:00

場所 ノア南4西2TEL 511-1377

司会・レポーター 細谷洋子

「女と戦争、読書会 Part II



(1) 戦争を考える――

今年は日本開戦から40年です。昨年12月7日(日本開戦12月8日)東京渋谷の山手教会で「戦争への道を許さない女たちの集会」が開かれました。

千三百名をこえる女性たちが、石原慎太郎の動画、戦争への足音に危機感を抱き、何とかこれを阻止したいと集まりました。又、それをきっかけに各地で反戦の集会がもたらされています。

この道はいつか来た道。一口の重い戦争体験者も、今の世の中の動向も、かつて戦争に国をあげてひたむきに参った時代の状況と、とっても似ていますと声をあげ始めました。現代は戦争、そのものと、実戦としてうけとめることが出来ない時代が多基をはじめています。そうして中止、オムツちうす、丑うなづいこと、知らざれぬことなどが多すぎます。又、巧妙に問題が、すりかえられたりして居ます。ものごとの本質をさうとみずえぞくく現実を悟たらくことはどちらかと思います。かつてあの時代の人々が「そうであつてよう」に気がついてみたら、もう身動きが出来ない声をあげることも出来ない。そしてせむりとゆるまるとにかかわらず、戦争の胆い手として軍事体制の中に組み込まれていく。

この木に「じらう」といふ為了に、私たちは、自分たちの出来るところから、何かをしていかなければいけない時代に来ていると思ります。

私たちは、当面、「今、戦争を考える」というテーマで、学習を積み重ねを行なうと見えます。

防衛の問題」「核軍縮、原発の問題」「靖国神社」「憲法改憲」「マスコミ報道、情報管理の問題」「東南アジアへの経済侵略」「買春観光の問題」「従軍慰安婦、従軍看護婦」「教育の問題」等10回ぐらい、あごらのメンバーがレポーターになつたり、各々の専門分野の講師をおねらいでの学習会、スライド上映を予定しています。

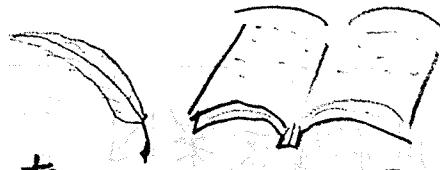
オーディ、今戦争を考える『防衛の問題』レポーター中山祐夫、
政経界の云う歴史教科、軍事産業の復活
現在の日本の軍事力。ソ連脅威論のよやかし等。

日時 10月21日(木)午後6時30分~

場所 未定

詳しくは、10月13日例会で説します。(加藤とい子記)

情報欄



■ 八十七歳の青春 (カラー作品 2時間)

『市川房枝生涯を語る』

・10月27日(火) 上映PM 6:30

・10月28日(水) // PM 1:30

・札幌市教育文化会館小ホール(北1西13)

■ 10/18(日) 安保をつぶせ!!

女たちは立ちあがる! 全道集会

11:00 ~ 市内デモンストレーション

12:00 ~ 13:00 昼食

13:00 ~ 全体集会

お茶の会より お知らせ



ホーヴォワール著の性の読書会をしています。

生物的差異を社会的差別としてつくられてきた女性。

今までにそれぞれが読んできた女性問題について書かれ
多数の本の内容が、やはりこの「性」の中で最も系統的
統合的に語られているらしい分り。改めて、この本を読み、
ことの意義を確認しました。

これからも、じっくり、ゆっくり学習を続けてゆく予定です。
次回は10/8, 10/24(木) AM10:00~12:00

婦人文化会館2階和室にて、性(II) 新潮文庫
一人では中を読めないと思う方、話したい方、

どうぞ御参加下さい。

今村記